

平成29年度 学校自己評価結果

北海道歯科衛生士専門学校

評価項目の達成及び取組状況

(1) 教育理念・目標

	評価項目	評価：適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1	コメント
①	学校の理念・目的・育成人材像は定められているか	④ 3 2 1	<p>本校では、優秀な歯科衛生士を養成する施設としての理念、目的、育成人材像を定めており、教職員共通の認識の下で学生の教育・指導を行っている。</p> <p>参考資料：教育理念・目標</p>
②	学校における職業教育の特色が表れているか	④ 3 2 1	<p>本校の特色である即戦力を有する人材を育成するために、より実践的な教育内容となるカリキュラムを組んでいる。また、昼間部、夜間部共に、臨地・臨床実習の時間数を十分に確保するとともに、臨床実習先と密に連携を図ることによって、個々の学生に合わせた実践的かつ効率的な実習ができるようにしている。</p> <p>参考資料：教育課程</p>
③	社会・歯科業界のニーズに合っているか	4 ③ 2 1	<p>現役歯科医師による講義等により、時代のニーズを意識した教育を行っている。一方で、将来的なニーズの変化についての対応については不十分であるため、日本に限らず世界的な視野での広範な情報収集を行う必要があると考えている。</p> <p>参考資料：授業実施計画</p>
④	学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	4 ③ 2 1	<p>学生に関しては、入学時のオリエンテーションにおいて周知するとともに、授業などでも繰り返し周知するようにしているが、保護者等への周知については不十分な点があるので、今後は積極的に周知していきたい。</p> <p>また、学校の目的、育成人材像については学則等に記載されているが、理念、特色、将来構想については文書化されていないので、学生便覧などに記載する必要がある。</p> <p>参考資料：学則</p>

評価項目の達成及び取組状況

(2) 学校運営

	評価項目	評価：適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1	コメント
①	目的に沿った運営方針が策定され、運営方針に沿った事業計画が策定されているか	4 ③ 2 1	学校運営については、理事会を中心とした学園全体の運営方針が策定されている。しかし、本校における事業計画は作成されていないため、今後は具体的な内容の事業計画を策定する必要がある。
②	運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか。また、有効に機能しているか	④ 3 2 1	学校の運営組織の中に、細則に規定された意思決定機関として校務運営会議を置いている。また、全教職員が出席する職員会議を月1回、全教員が出席する教務会議を月2～3回、および部門ごとの連絡会等を随時開催することにより、教職員間における情報の共有化を図っている。 参考資料：学則第18条・職員会議に関する細則
③	人事、給与に関する規程等は整備されているか	④ 3 2 1	人事及び給与に関する規程は、学校法人札幌青葉学園専任教職員就業規則、および学校法人札幌青葉学園給与規定において定められている。
④	教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4 ③ 2 1	学園においては理事会を中心とした意思決定システムを整備している。学校単位では意思決定機関としての校務運営会議がある。 なお、各部門における稟議から決裁までの各段階での承認について、これまでは書類（紙）で行っていたものを電子化することで迅速に行えるように整備しているが、まだ十分に対応できていない点がある。
⑤	教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	4 3 ② 1	ホームページ等を利用して随時情報発信を行っているが、職業実践専門課程で求められているレベルには達していないため、今後はホームページ等を利用して積極的に情報公開を行う必要がある。

評価項目の達成及び取組状況

(2) 学校運営

	評価項目	評価：適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1	コメント
⑥	情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4 ③ 2 1	平成29年度より、学内ネットワーク、学園内クラウドによる情報の共有、業務の管理、効率化を図っているが、十分ではない。 今後は学生の学籍管理等についても、情報システム化を図っていく必要がある。

評価項目の達成及び取組状況

(3) 教育活動

	評価項目	評価：適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1	コメント
①	教育理念等に沿ったカリキュラムの編成・実施方針等が策定されているか	4 ③ 2 1	<p>教育理念等に沿ったカリキュラムを編成するためには、定期的な見直しが必要であるため、夜間部については平成30年度に全面的なカリキュラム改正を行った。しかし、昼間部については開校以来大幅な見直しが行われていないため、平成31年度を目標にカリキュラムの見直しを行っているところである。</p> <p>参考資料：教育課程</p>
②	一定の到達レベルを目標とした教育や学習時間の確保がなされているか	④ 3 2 1	<p>座学、実習ともに十分な時間が確保されており、国家試験合格率は高水準を保っている。また、実技の面においても、即戦力を育成すべく、内容、時間数ともに充実した学内外での実習計画を組み立てている。</p> <p>参考資料：教育課程</p>
③	各学科のカリキュラムは体系的に編成されているか	4 ③ 2 1	<p>概ね問題ないが、学習時期等については改善が必要な教科があるため、平成31年度を目標に昼間部カリキュラムの見直しを行っている。</p> <p>参考資料：教育課程</p>
④	医療人の職業教育という視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	④ 3 2 1	<p>態度、知識、技術のバランスを考慮し、カリキュラムの編成を行っている。昼間部においては高校を卒業した若い世代が多数を占めるため、社会人、医療人としての心構えを育成できるようなカリキュラム、教育方法を実施している。夜間部においては限られた時間内に効率よく教育を行えるよう、実習先との連携、カリキュラム編成の工夫を行っている。</p> <p>参考資料：教育課程</p>

評価項目の達成及び取組状況

(3) 教育活動

	評価項目	評価：適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1	コメント
⑤	関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4 ③ 2 1	関連企業の役員等から成る教育課程編成委員会を組織し、年2回の会議を開催するようにした。委員会からの意見については、平成31年度に向けて行われているカリキュラムの再編に反映させることにしている。
⑥	関連分野における実践的な職業教育（産学連携による実技・実習等）がカリキュラムに組み込まれているか。	④ 3 2 1	歯科医院、介護施設、保育施設、保健所での実習を行い、実践的な職業教育を行っている。また、実習時間も十分に確保している。 参考資料：教育課程、臨地・臨床実習施設一覧
⑦	授業評価の実施・評価体制はあるか	4 ③ 2 1	平成29年度より学生による授業評価を行っており、専任教員だけでなく非常勤講師についてもその結果を報告し、授業の改善を図っている。今後は教員同士での評価体制を確立し、より一層質の高い授業を目指す。
⑧	職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4 3 ② 1	これまでは、実習先や外部講師の方から個別に意見を伺うだけで、体系的に外部からの評価を取り入れる仕組みは構築されていなかった。平成29年度に学校関係者評価委員を組織したので、今後は学校評価を定期的を実施して学校全体として組織・運営の改善を図って行く。
⑨	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	④ 3 2 1	これらはすべて「学業に関する規定」に明記されており、規定を遵守している。 参考資料：学業に関する規定

評価項目の達成及び取組状況

(3) 教育活動

評価項目		評価：適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1	コメント
⑩	国家資格取得に関する指導体制を体系的に明確に位置づけているか	④ 3 2 1	授業時間内で国家試験対策時間を確保し、指導に当たっている。国家試験合格率も高い水準を保っている。 参考資料：国家試験合格率
⑪	教育理念、教育目標の達成に向けて、授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	④ 3 2 1	専任教員、非常勤講師ともに、要件を備えた教員を確保している。但し、夜間部の専任教員数については必要数は確保しているものの余裕が少ない状況であるので、増員を目指したい。
⑫	関連分野における業界等との連携において優れた教員を確保するなどの取り組みが行われているか	④ 3 2 1	医療法人仁友会等の実習施設の歯科医師をはじめ、大学等から優れた講師を招き、本校の教育に協力をいただいている。また専任教員については臨床経験豊富で学生教育に熱心な歯科衛生士を積極的に採用している。
⑬	関連分野における先端的な知識と技能等を修得するための研修や教員の指導能力育成など資質向上のための取り組みが行われているか	4 ③ 2 1	外部研修の参加費用の助成等を行い、教員が教育に求められる能力等を高める為の環境を整えている。また、平成30年度からは外部講師を招き、校内教員研修を行うことを計画している。

評価項目の達成及び取組状況

(4) 学修成果

	評価項目	評価：適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1	コメント
①	就職率の向上が図られているか	④ 3 2 1	就職に関するサポート体制が整っており、就職を希望する者の就職率は開校以来100%である。 参考資料：就職率
②	国家試験合格率の向上が図られているか	4 ③ 2 1	平成29年度国家試験において、夜間部から開校以来初めての不合格者を1名出してしまった。原因の1つとして昼夜間教員の連携不足が考えられるので、今後は昼夜間の枠にとらわれず教員全体で学生のサポート体制を確立していく。 参考資料：国家試験合格率
③	退学率の低減が図られているか	4 3 ② 1	退学率は低いとは言えない。担任教員の負担が大きく学生への精神的なフォローまで手が回らない現状がある。また、医療人を育成するにあたって一定の厳しさが必要であるが時代の風潮との差異を感じることもある。改善策として昼間部は1学年の人数が多いため、平成30年度より担任2人制を実施している。夜間部においては現状担任1人であるが、昼夜間の垣根なく全学生の把握、情報共有を行いフォローを行っていく。 参考資料：年度別入学者・卒業生数推移
④	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4 ③ 2 1	実習先に就職する学生が多いため、教員が定期的に歯科医院を訪問し評価や近況の聞き取りを積極的に行っている。しかしそれ以外の卒業生については動向を把握しきれていないため、平成30年度内を目標に同窓会を設立し、卒業生の勤務状況等を把握することになっている。

評価項目の達成及び取組状況

(4) 学修成果

	評価項目	評価：適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1	コメント
⑤	卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4 3 ② 1	卒業後の学生の動向を把握しきれていないため、教育活動への反映ができていない。平成30年度内を目標に同窓会を設立し、卒業生の勤務状況等を把握する。

評価項目の達成及び取組状況

(5) 学生支援

	評価項目	評価：適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1	コメント
①	進路・就職に関する支援体制は整備されているか	④ 3 2 1	各学級担任及び教職員全体での学生一人ひとりに対する細やかな就職指導体制が整備され、有効に機能している。また、教員による個別の指導、支援のほか、学校内・外部での就職説明会、外部講師によるマナー講習等も実施している。
②	学生相談に関する体制は整備されているか	4 ③ 2 1	主に各学級担任が学生相談の窓口となっている。しかし担任1人では学生数に対応しきれない現状がある。副担任や他学年教員も対応してはいるが、担任の業務過多は解消されていない。改善策として平成30年度より昼間部は担任2人制を実施している。夜間部においては現状担任1人であるが、昼夜間の垣根なく全学生の把握、情報共有を行い、細やかに対応できる体制を目指す。
③	学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4 ③ 2 1	日本学生支援機構の奨学金等、外部の支援組織の紹介、学納金の分割・猶予の制度を設け、学生一人ひとりに対応した支援を行っているが、これだけで十分であるとは言えないため、教職員間での情報共有を強化するとともに、詳細な説明資料等の整備を行って、一層の支援体制を整えたい。
④	学生の健康管理を担う組織体制はあるか	④ 3 2 1	学校教育法、学校保健安全法に基づいて、毎年春に健康診断を実施している。また、健康診断結果に基づいて、養護教員による健康管理への指導、健康相談等を行っている。
⑤	保護者と適切に連携しているか	4 3 ② 1	何事も保護者と連携して解決を図っているが、定期的な保護者との連絡、来校の機会はない。学生の生活環境、精神的な成熟度の個人差、多様性が広がる現代において、保護者との連携は学生指導の成否を分ける大きな要素であるため、今後は保護者との連絡体制を整え、家庭と学校で協力して学生をサポートできる環境を目指す。

評価項目の達成及び取組状況

(5) 学生支援

	評価項目	評価：適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1	コメント
⑥	卒業生への支援体制はあるか	4 3 ② 1	卒業生から要望があった場合に個別に対応しているが、組織的な体制は整っていない。今後発足される同窓会組織との連携を含め、体制を整備していく必要がある。
⑦	学生、卒業生のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4 3 ② 1	学生、卒業生のニーズを把握するような活動は現在行われていない。教員と学生の会話の中で改善できる点が見つかれば都度解決している。今後は学生、卒業生のニーズを把握するため、学生アンケートの実施や、発足に向けて準備を進めている同窓会などを利用し学生の声を収集する機会を増やしていく必要がある。

評価項目の達成及び取組状況

(6) 教育環境

	評価項目	評価：適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1	コメント
①	教室・実習室等は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4 ③ 2 1	学生数に対する教室・実習室等は教育上の必要性に十分対応している。しかし、学校設立から10年が経ち、今後は設備面の経年劣化も見込まれるため、施設設備の定期的な見直しと、計画的な更新を行い、充実させていく必要がある。
②	学校外の臨地・臨床実習施設について、十分な教育体制が整備されているか	4 ③ 2 1	<p>臨地・臨床実習施設との連携の上、教育体制の充実を図っている。しかし、年々臨地・臨床実習施設数が増加していることから、一層の情報共有・連携を図るためのシステム作りを行う必要がある。</p> <p>参考資料：臨地・臨床実習一覧</p>
③	防災に対する体制は整備されているか	4 3 ② 1	定期的に消防設備点検（年2回）を行い、設備面では十分に整備しているが、学生・教職員に対する防災・避難訓練の実施が不十分なため、今後は定期的な実施の必要がある。

評価項目の達成及び取組状況

(7) 学生募集

	評価項目	評価：適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1	コメント
①	高等学校等に対し、情報提供が十分であるか	4 ③ 2 1	学園広報室と学校教職員が連携して広報活動を行っている。高等学校等に対しては資料や学生からの報告及び高等学校訪問にて随時説明を行っている。今後は学生からの報告・学校訪問をより定期的の実施し、情報提供を行っていききたい。
②	学生募集活動は、適正に行われているか	④ 3 2 1	文部科学省・入学者選抜実施要項、北海道専修学校各種学校連合会・AO入試に関する自主運用基準に基づき、学生募集活動は適正に行われている。
③	学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4 ③ 2 1	パンフレット、ホームページ等において記載し、正確に伝えられているものの、最新情報の更新に時間がかかっているため、今後は最新情報を適宜更新し、より正確に伝えられるように工夫していく必要がある。
④	学納金は妥当なものとなっているか	④ 3 2 1	学納金については学生募集要項に明記されており、学校運営経費や実習費、諸経費等を鑑みて適切な設定となるように努めている。なお、教材費は実費であり、入学後に学生から徴収している。 参考資料：学生募集要項

評価項目の達成及び取組状況

(8) 財務状況

	評価項目	評価：適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1	コメント
①	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4 ③ 2 1	近年、入学者数の減少により、財政基盤はやや不安定になってきているため、学生募集の充実による入学者数の増加を図っている。これに加えて退学者数の減少、および支出を見直して財務基盤の安定化を図る必要がある。 参考資料：年度別入学者・卒業者推移
②	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	④ 3 2 1	予算、収支計画は、理事会、評議員会で審議され、作成されている。年度ごとの予算の執行内容は妥当である。
③	財務について会計監査が適正に行われているか	④ 3 2 1	会計監査は、監査法人のもと、公正、適切に実施されている。
④	財務情報公開の体制整備はできているか	4 3 2 ①	学園の財務情報については現在は公開していないため、今後公開する必要がある。

評価項目の達成及び取組状況

(9) 法令の遵守

	評価項目	評価：適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1	コメント
①	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	④ 3 2 1	専修学校設置基準、歯科衛生士学校養成所指定規則、歯科衛生士養成所指導ガイドライン等の法令、基準に基づき適正な運営がなされている。
②	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4 ③ 2 1	個人情報保護のセキュリティ対策について、教職員間で注意喚起・情報の共有を図っているが、現在は明文化された規程がないため、今後は規程等の整備を行う必要がある。
③	自己評価の実施と問題点の改善を行い、公表しているか	4 3 2 ①	今回初めて学校評価を行うため公表していない。この度の自己評価結果、および学校関係者評価の結果については、すみやかにホームページ等を利用して公表する。

評価項目の達成及び取組状況

(10) 社会貢献・地域貢献

	評価項目	評価：適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1	コメント
①	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4 3 ② 1	関連学会等の施設利用については審査の上許可している。また、講師依頼等がある場合にはできる限り要望に添うことにしているが、依頼が少ないので、積極的にアピールしていく必要がある。
②	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4 ③ 2 1	授業内で行っている集団保健指導の媒体を用いて幼稚園・保育園への歯科保健指導ボランティアを行っている。その他ボランティアの依頼があった場合は学生へ周知し参加を促しているが、学生にボランティア活動を行う時間的余裕が少ないのが現状である。 参考資料：ボランティア実施状況
③	地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4 ③ 2 1	中学生の職業体験学習等の申入れがあった場合には、積極的に受け入れているが、公開講座などによる地域貢献は実施していない。そのため現在、歯科衛生士の復職支援講座等の開催を計画している。 参考資料：職業体験講座開催状況